

面もあつたが今一歩及ばず、29対28で惜敗、船岡駐屯地チームの連覇を許した。残念。

### 陸自第一空挺団初降下訓練

一月十三日、陸自習志野演習場における恒例の陸自第一空挺団初降下訓練行事に、県隊友会長以下多くの隊友会員が参加した。当支部においても柚木支部長以下多くの会員が参加した。岩屋毅防衛大臣を迎えて行われた本年の行事は、好天に恵まれ、例年にも増して多くの人々が見学に押し寄せた。本年の初降下訓練は、「日米空挺の絆」をテーマに、日米空挺部隊合同して数百の落下傘が習志野の空を埋め尽くす一大ページェントであった。

まず陸自空挺団長及び米陸軍空挺旅団長を先頭に日米空挺各級部隊長による指揮官降下が行われたことを皮切りに、10機の輸送機及び多数のヘリコプターから約300人(米軍80人を含む)の日米空挺隊員が次から次と降下し、落下傘が習志野演習場の空を埋め尽くした。参加した米軍は、在アラスカ第4空挺旅団、在ハワイ第25師団、在沖縄第1特殊作戦群で、日頃から年間を通じ第一空挺団と共同訓練を重ねている間柄とのこと。

降下に続く演習展示は、離島奪回作戦の一連のシナリオで進められ、降下部隊の海岸堡壘占領に引き続く攻勢転移

では、一六式機動戦闘車、一〇式戦車、更には陸自水陸機動団の水陸両用戦闘車AAV7も登場して、展示演習の最後を締めくくった。

展示演習終了後の野宴においても、日米空挺部隊員が異域同舟、互いに盃を挙げ、隊歌を応酬し、元氣一杯、大いに盛り上がった宴となった。岩屋防衛大臣も、野宴に盛り上がる各部隊を逐一巡回して、日米の隊員を激励して回られた。

なお、隊友会習志野支部は、毎年の例にならない、ささやかながら、激励の意をこめて野宴酒肴料を贈呈した。

### 建國記念日祝賀行事

二月十一日、千葉市・千葉県教育会館大ホールにおける「建國記念の日を祝う千葉県民の集い」に、隊友会からも多くの会員が参加、当支部も柚木支部長以下多くの会員が参加した。

### 千葉県自衛隊入隊者激励会

三月十日、四街道市文化センターにおいて、千葉県自衛隊家族会連合会主催による平成三十一年度千葉県自衛隊入隊・入校予定者激励会が開催され、柚木支部長以下が参加した。

### 行事等の今後の予定

#### 習志野駐屯地創立記念行事

陸自習志野駐屯地における同駐屯地及び第一空挺団の創立記念行事は、三月三十一日の予定。

#### 千葉県護国神社春季例大祭

四月十日、千葉県護国神社にて開催予定。

#### 千葉県隊友会総会

平成三十一年度千葉県隊友会総会は、四月十七日(水)、三井ガーデンホテル

#### 千葉県隊友会ゴルフコンペ

五月二十一日(火)、四街道支部が幹事役で、ムーンレイク茂原GCにて開催予定。支部対抗戦を基本とするが、混成支部チーム、個人参加も可。

#### 隊友会習志野支部総会

六月中旬、京成津田沼駅周辺にて開催予定。

#### 習志野駐屯地夏まつり

八月上旬、陸自習志野駐屯地にて開催予定。

## 自衛官OBで再々就職をお考えの方へのお知らせ

千葉県自衛隊援護協力会(会長:大田 禊之、参加企業:約200社)が、人材確保の一環として、元自衛官の再々就職希望者(自衛官退官者の最初の就職を勤め終えた方で、年齢は70歳程度までの方)の採用に、この度、本腰を入れます。

ご希望の方は、退官時の駐屯地・基地援護室に「再々就職希望」を申請して下さい。当該援護室が、上記千葉県自衛隊援護協力会に連絡して、同援護協力会が参加企業と調整の上、面接まで進めてくれるとのこと。

本件に関するお問い合わせ先  
080-1291-0657(担当:伊丹)

# 会報 習志野隊友

## 会員の声

### 自衛隊観閲式での安倍総理訓示

いささか旧聞に属するが、平成三十年十月十四日、朝霞駐屯地における平成三十一年度自衛隊記念日観閲式に参列する機会を得た。本観閲式における安倍内閣総理大臣訓示が大変感動的だったので、後日記録を取り寄せた。支部隊友諸氏にも感動を共にしていただきたく、ご披露申し上げます。

なし得れば、ご家族にもご一読いただくことを、是非お勧めする。  
支部長 柚木 文夫

\*

この朝霞の地で、私自身3度目となる観閲式に臨み、土気旺盛な隊員諸君の勇姿に接することができ、大変嬉しく思います。

冒頭、この夏に相次いだ自然災害により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りします。被災された全ての皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

現場には、必ず諸君達の姿がありました。

民家が土砂に押し潰されている。土砂崩れの一報に、隊員達は、倒木を乗り越え泥濘に足を取られながらも、休むことなく歩き続けました。体力の限界が近付く中、立ち尽くすご家族を前に、最後の気力を振り絞り、全員を救出した。さすが自衛隊。被災者の方々にそう言っていただけの能力、そして何よりも、その志の高さを改めて証明してくれました。

自衛隊の災害派遣実績は、実に4万回を超えています。自然災害だけではありません。悪天候で交通手段が絶たれてしまう離島において、患者の命を救うには一刻の猶予もない。こうした中での緊急輸送は、正に国民の命綱です。

「緊急輸送要請あり。直ちに出勤せよ」。11年前。一人の女性の容態が急変し、危険な状態に陥っていると一報が、那覇駐屯地に入電しました。建村善知一等陸佐率いる4人のクルーは、躊躇なくヘリに飛び乗り、鹿児島県徳之島に向けて漆黒の闇が広がる空へと飛び立って行きました。現地は一面の濃霧が広がり、着地目標のグラウンドは視界不良。垂れ込めた雲が進入

を阻みました。「あと一度、進入を試みる」。容態は一刻を争う状況の下で、建村一佐は、これまでの4800時間を超える飛行経験と自衛官人生の全てを傾け、着陸に挑み続けました。地上の管制官に、近くの徳之島空港への着陸調整を依頼するなど、最後まで決して諦めませんでした。これに応え、地上にいる隊員達も、最善を尽くしました。「有難う」。管制官への感謝の言葉が最後となりました。4人が再び基地に戻ることはなかった。

建村一佐は、かつて部下の隊員達に、こう語っていたそうでありませぬ。「自分達がやらねば誰がやる」と。全国25万人の隊員一人一人の、高い使命感、強い責任感によって、日本は、日本国民は、守られている。事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負託に応える。諸君の崇高なる覚悟に、改めて、心から敬意を表します。

24時間、365日、国民の命と平和を守るため、極度の緊張感の中、最前線で警戒監視にあたり、スクランブル発進を行う隊員達が、今この瞬間も日本の広大な海と空を守っています。

我が国の平和を守り、アジア・太平洋の平和と繁栄の礎を築く。北朝鮮に関する国連安保決議の完全な履行を果たしていくために、米国、イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドといった同志国と手を携え、瀬取り防止のための警戒監視活動に当た

つています。自らの意思でこの困難な道に進んでくれた諸君。ただ、ひたすら、国民のため、献身的に職務を遂行する諸君は、日本の誇りでありませぬ。

領土・領海・領空、そして国民の生命・財産を守り抜く。政府の最も重要な責務です。安全保障政策の根幹は、自らが行う継続的な努力であり、立ち止まることは許されませぬ。この5年余りの間に、我が国を取り巻く安全保障環境は、格段に速いスピードで不確実性を増し、厳しいものとなりました。今や、安全保障のパラダイムは大きく転換しつつあります。宇宙、サイバー、電磁波といった新たな分野で競争優位を確立できなければ、これからこの国を守ることはできません。

この冬に策定する新たな防衛大綱では、これまでの延長線上ではない、数十年先の未来の礎となる防衛力のあるべき姿を示します。諸君達は、日々刻々と変化する国際情勢や技術の動向に目を凝らし、これまでのやり方や考え方に安住せず、それぞれの持ち場で、在るべき姿に向かって、不断の努力を重ねていって下さい。

私は、自衛隊の最高指揮官として、諸君と共に、国民の命と平和な暮らしを守り抜き、次の世代に引き継いでいく。そのために全力を尽くす覚悟です。我が国の平和は、一国だけで守り切れるものではありません。積極的平和主義の旗を高く掲げ、世界の平和と繁

栄に、日本ならではのやり方で、これまで以上に貢献していく決意でありま

マグニチュード7.4の大地震と津波の被害を受けたインドネシアでは、C-130輸送機で現地に駆け付けた49名の隊員達が今も、被災された方々の命をつなぐ活動を行っています。ソマリア沖・アデン湾では、国際社会の平和と安定のため、他国部隊と力を合わせ、全力でシーレーンの安全確保に当たっています。

灼熱のケニアでは、アフリカ各国のPKO派遣部隊の訓練指導に汗を流す隊員達がいます。シエラレオネから参加した女性もいます。今はアフリカの他の国々の国造りの支援に積極的なこの国も、少し前までは同じ国民同士が戦う内戦が続いていました。当時、その最前線にあって彼女は、銃を執る他なかった。兵士と共に戦いに参加して

しかし、ケニアにやってきました彼女は、自衛隊の指導の下、まず文字の読み書きから習い始めました。様々なことを学ぶ中で、クレインの重機操作も上達しました。いよいよ母国へと戻るその日、彼女はこう語ったそうです。『平和に貢献できることが、本当に嬉しい』と。彼女を始め参加者達が日本の自衛隊から学んだ技術を基に、道路や橋を築く。やがて、通りには多くの人が行き交い、子供達の笑顔が溢れることでしょう。

自衛隊がアフリカの大地に植えた平和の苗は、やがて大輪の花を咲かせるに違いありません。彼らはアフリカの平和な未来を背負って立ち、共に世界の平和と繁栄を守ってくれるはずですが、その大きな誇りを胸に、諸君には、国際社会の平和と安定に向けて、これからの一層、力を尽くして欲しい。大いに、期待しています。

今や国民の9割は、敬意をもって自衛隊を認めています。60年を越える歩みの中で、自衛隊の存在は、かつては敵しい目で見られた時もありました。それでも、歯を食いしばり、ただ、ひたすらに、その職務を全うしてきた。正に、諸君自身の手で信頼を勝ち得たのであります。

次は、政治が、その役割をしっかりと果たしていかねばならない。全ての自衛隊員が、強い誇りを持って任務を全うできる環境を整える。これは、今を生きる政治家の責任であります。私は、その責任をしっかりと果たしていく決意です。

御家族の皆様。日々の訓練はもとより、厳しい状況の下でも、勇気を奮い立たせ、高い使命感を持って任務を遂行していく。その拠り所は、御家族の皆様方にほかなりません。大切な伴侶やお子様、お父さん、お母さんを、自衛隊員として送り出して下さっていることに、最高指揮官として心から感謝申し上げます。

隊員諸君。私と日本国民は、常に

アジアの平和を守る軍人仲間同士、友軍的關係を保つべきなのに、政治の思惑に翻弄されてか、昨今の日韓関係の捻じれようは誠に残念である。

(会員 S)

お知らせなど

会員の叙勲受賞のお祝い

植木一生殿 瑞宝小綬章(受章)

この度の平成30年度秋の叙勲において、当習志野支部会員・植木一生殿(谷津二丁目)が、見事、瑞宝小綬章(受章)の栄に浴された。榮譽を称え、長年のご苦勞を労い、心から(受章を)お喜び申し上げます。

新入会員の紹介(敬称略)

- ・白石 重徳(陸) 藤崎二丁目
・辻 厚(陸) 實籾二丁目

行事等の実施・参加

県護国神社例大祭ご奉仕

十月七日、千葉県護国神社秋季例大祭に先立つ境内の清掃、「あゝ特攻碑」

自衛隊と共にある。その誇りを胸に、自衛隊の果たすべき役割を全うして下さい。自らの職責の重要性に思いを致し、気骨をもって、日本と世界の平和と安定のために、ますます精励されることを切に望み、私の訓示といたします。

平成三十年十月十四日

自衛隊最高指揮官・内閣総理大臣 安倍 晋三

韓国艦海自機に照準レーダ照射

去る十二月二十日、能登半島沖で警戒監視飛行中の海自・四空群(厚木基地)のP1哨戒機が、韓国海軍・駆逐艦から火器管制レーダーの照射を受けた。普通なら、攻撃される前に応射して、ここで即、日韓戦争が勃発してもおかしくない不測の事態である。しかし、海自機が冷静に対応して、緊急通信をもって問いかけを繰り返しつつ、回避行動を取ったので事なきを得た。しかし、その後の韓国側の姿勢が誠に不可解である。翌二十一日、日本側から事態を公表するとともに外交ルートを通じて抗議したところ、逆に韓国側から「悪いのは異常接近した海自機」の抗議がなされた。その後、日本側から再三にわたり証拠映像などを提示しても、韓国側は事実を認めず、年明け

まで日韓間に応酬が繰り返された。一言「ごめんない。ミスでした」と言えれば決着したのに、何が何でも日本には頭を下げたくない、彼の国の依怙地さが思いやられる。

年が明けてからも、日韓の実務者協議やら日本側からの再三の証拠画像や音声の公開伝達に対しても、韓国側からは、「事実を歪曲する行為」と逆に謝罪を求めてくる体たらくである。途中、韓国側が「日本機の威嚇的飛行」の証拠として提示した動画は、遙か彼方の上空にP1の機影が映っているだけで、逆に彼らの主張する「P1機の威嚇的(低空飛行)」などなかったことを証明しただけに終わった。

事実を歪めているのは、韓国の方である。火器管制レーダーの照射は、ミサイルなどで攻撃するための照準動作であり、既に危険な敵対的行動である。韓国艦が(多分誤って)火器管制レーダーを照射したことは客観的事実である。照射を認めて一言、日本に謝罪することが何故出来ないのか。韓国では、軍人の良識が政治家に通用しないのか。もともと、現韓国大統領・文在寅氏は、反日、親日清算のみをスローガンに掲げて大統領に当選した男である。慰安婦問題、徴用工訴訟、旭日旗の排斥、天皇陛下への謝罪要求など、日本の統治時代の歴史に由来する問題を次から次と考え出し、日本に突き付けてくる。本年三月一日、文大統領は、日本の

定・枝落とし・清掃作業に汗を流した。

松戸駐屯地部隊研修

千葉県隊友会は、毎年1回、現職部隊の激励を兼ねて、県下自衛隊部隊の部隊研修を行っているが、今年も十一月二十八日、小淵会長以下、会員38名が参加して陸自松戸駐屯地を研修した。

落下傘整備工場、需品器材整備工場、即動補給倉庫、野外入浴施設などを順次見学し、災害派遣、国際緊急派遣、PKO派遣など、緊張して任務に就く陸自部隊に密着して即応支援する需品補給処の重要性について思いを新たにされた。

全自ラグビー大会・習志野借敗

全国各地の陸海空自衛隊が参加する全自衛隊ラグビー大会が、十二月二十日、松戸、習志野駐屯地等で開催された。

大会は、過去の実績に基づくランク分けで、A、B、Cブロックに分かれて戦われたが、Aブロック(最強ラング)決勝は、十二月十日、奥戸総合スポーツ公園競技場(東京都葛飾区)で行われ、宿敵同士、習志野駐屯地チームと船岡駐屯地チームが対戦した。習志野チームが一時リードを奪う場

朝鮮統治時代に起きた「三一運動」の100周年記念式典でも、「歴史の立て直しこそが重要であり、(日本に協力した)親日の残滓の清算こそが重要課題だ」と演説した。「力を合わせ(日本統治時代の)被害者らの苦痛を実質的に癒したときこそ、韓国と日本は心の通じる真の友人となる」とも語った。

「日本は、謝っても謝っても謝り足りない」という韓国側の主張に日本が従わなければ日韓友好はあり得ないという文脈である。およそ、韓国側だけに問題が解決したかどうかを決める権利があるという論法である。これ程の乱暴な要求を、日本は受け入れることはできない。

韓国は戦後独立して久しい。経済は成長し、先進国の仲間入りをした。「反日」というスローガンだけで国をまとめる時代はもう終わつたんじゃないのか。それに気が付かない男を、たまたま大統領に選んだ韓国の選挙民が気の毒である。

(3) 自衛隊と韓国軍は、お互い、北東ア

自衛隊と韓国軍は、お互い、北東ア